

ことであろう。

米国は測器の検定や技術の訓練をする施設を開設し世界中に利用させる事を発表した。その他セミナーの開催計画、訓練教程の準備、ガイドに一章を加える、などがWGの任務となった。

会議場での発言のうちアフリカ諸国のものが目立った。“開発途上国”という言葉すらきらって、“ある国”ではと直す場面もあった。場外ではエジプトの Kharil 氏から雨の少ない国のなやみを聞かされたが、砂あらしの探知レーダの開発には金を出すなど切実な要求も含ま

れていた。

オホーツク海北岸あたりに相当する緯度にあるヘルシンキでは、8月始めは夜の9時半ごろまでうす明るい。強い酒は免許制か何かがあるらしく手に入らず(バーではのめるが)、スーパーで買ったビールを酔うまでのむと腹が一杯になって困った。それでも駅周辺にはおかしな酔っぱらいがうろろしていた。電話の英語ニュースサービスによると、気温はあすも高く28°くらいでしょう、政治と同じく暑いようです。とジョークが入っていた。前線の通過で雷の鳴った日もあった。

---

## 夏期大学講座 (第8回)

### 『新しい気象学教室』開催のお知らせ

今年も気象学普及のための「新しい気象学教室」第8回を7月29日から8月2日にわたって開催する予定です。テーマは「気候変動特集」とし、最近社会的に強い関心をもたれている気候変動の実態やその原因あるいは社会への影響等について、専門家の方々に解説、講義を

していただく予定です。

この講座は主として、中・高校の理科ならびに地学担当教員を対象としたものですが、詳しい内容、参加申込みの手続きなどについては次号でお知らせ致します。

1974年4月 講演企画委員会

---

## 訂 正

Vol. 21, No. 3 の用語解説番号35は38の誤りにつき、お詫びして訂正します。